

事業名		山地治山	路河川名等	一級河川 三峰川支流	
事業毎の通番		6	市町村名	伊那市	
			箇所名(ふりがな)	長谷 与沢 (はせ よざわ)	
事業概要	事業目的	当該地は、溪流起点付近の崩壊地及び溪岸浸食により、過去の豪雨時に度々、直下の国道に土砂が流出した。溪流内には、未だ不安定土砂が堆積しており、今後も流出する恐れがあるため、溪間工を施工して溪流の安定を図る。			
	しあわせ信州創造プランにおける位置付け	4-1 地域防災力の向上	事業実施の根拠法令等	森林法	
	関連する事業、計画等	伊那市地域防災計画			
	保全対象・範囲 受益対象・範囲	国道152号、人家2戸、旅館1棟			
	着手年度	H29	事業期間	4年間	
	完成年度(見込み)	H32	費用対効果	1.30	
	全体事業内容(主な工種)	谷止工 2個、流路工90m、山腹工0.10ha		事業費(千円) 国庫 45,000 其他 0 県債 0 一般財源 45,000	
	年度事業内容(主な工種)	谷止工 1個		事業費(千円) 国庫 17,500 其他 0 県債 0 一般財源 17,500	
	事業効果	直接的効果(定量的・定性的)	国道1000m、人家2戸、旅館1棟		
		間接的効果(定量的・定性的)	特になし		
評価の視点	必要性	○ 人家戸数 2戸 ○ 公共施設 国道152号 1,000m、旅館1棟 ○ 災害時要援護者関連施設の有無 なし ○ 保安林・林業用施設 土砂流出防備 (M43.9.14指定)	評価	B	
	重要性	○ 過去の災害履歴 過去の豪雨により、国道の暗渠が度々詰まった。 ○ 交通遮断による地域経済への影響 「大」 国道が遮断した場合に、かなりの迂回となる。 ○ 地域防災計画上の位置付け 特になし	評価	A	
	効率性	○ 費用対効果(B/C) 1.43 ○ 事業期間 4年間 ○ 工法等の比較検討 谷止工の種別について、鋼製との比較検討をした。 ○ 流域の総合調整 特になし	評価	B	
	緊急性	○ 流域の地形、地質 領家帯片麻岩状石英閃緑岩 ○ 平均渓床勾配(平均山腹勾配) 45.00% ○ 下流の堰堤等の整備状況 堰堤1基(道路施設) ○ 山地災害危険地区危険度・土砂災害防止法指定区域 崩壊土砂流出危険地(387-30)「C」	評価	A	
	計画熟度	○ 事業情報の共有 計画段階で地元説明により、周知を図る予定	評価		
		○ 地域の取り組み 災害時の維持管理を行っている。(土砂の排出) ○ 地域の合意形成 合意形成に基づき要望されている。 ○ 住民との協働 特になし	評価	B	
部意見	過去の豪雨等による不安定土砂が堆積しており、放置すれば国道に流出する恐れがあり対策工事を行う必要がある。	行政改革課意見	流域内には不安定土が存在し、今後の降雨等により土砂流出の恐れがあるため、必要性、重要性、緊急性が認められる。	評価結果 ○	総合評価 B

【位置図、平面図、構造図等】(縮尺任意)

【整備の必要性がわかる状況写真等】

上流崩壊地(将来計画)

谷止工計画地

①事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	H19など過去の豪雨時に、当沢から土砂が流出し、国道の暗渠を度々閉塞させた。それ以前には国道への土砂流出により、通行止めとなったこともある。近年の豪雨においても、暗渠閉塞に繋がりがねない土砂流出がある。
②地域からの要望経緯及び地域の関わり	H28.2月に、地元「中尾地区」の地区要望として、当該箇所の対策工事が上げられた。
③事業説明等の経緯	H28.5.31及びH28.6.17の現地調査の際に長谷総合支所職員等に、治山事業の主旨等を説明した。今後は、計画段階で地元説明会を開催し、事業内容の周知を図る予定
④他事業・プロジェクトとの整合、関連	道路管理者である伊那建設事務所と協議済(H28.8.25)
⑤自然環境・生活環境への影響と配慮	長野県産材利用指針に基づく、木材の利活用を行う。(木製残存型枠等)
⑥地域活性化への影響と配慮	なし
⑦その他	

事業概要説明図表

事業周辺環境

事業代表地点の緯度経度

北緯:N
東経:E